

六ヶ所村で発見されたイヌザクラについて

誌名	林業試験場報告 / 青森県農林総合研究センター林業試験場
ISSN	1349242X
著者名	今, 純一
発行元	青森県農林総合研究センター林業試験場
巻/号	14年度
巻号補足	
掲載ページ	p. 38-39
発行年月	2003年6月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



6. 六ヶ所村で発見されたイヌザクラについて

今 純 一

要 約

イヌザクラ (*Prunus buergeriana* Miquel) は青森県が北限になっており、三沢市の姉沼、仏沼など小川原湖周辺に点状に散在して自生地があるが (1, 2) それ以北については記録がない。

青森営林局・秋田営林局編集の東北の樹木誌 (4) によると、青森県内での分布は上北地方 (三八地方も含む) になっており、津軽地方や下北地方には分布していない。

平成14年の6月3日、小川原湖の北端に位置する六ヶ所村唐貝地の生活環境保全林で広葉樹林の調査を行っていたところ、林内に自生しているイヌザクラを発見した。

図鑑には (3)、落葉小高木で高さ10mに達すると書いてあるが、この個体は幹周り147cm、樹高14.5mあり、イヌザクラとしては大きなものと思われる。

八戸市在住の植物研究家、根市益三氏によると、未発表であるが、三八地方や上北地方のほかに、むつ市周辺で自生を確認している。しかし、三八地方以外では、大きい個体を確認していないということである。

唐貝地の生活環境保全林で発見されたのは、この一個体のみだが、北限近くに生育する高木として、保護すべき貴重なものと思われるので報告する。

なお、平成15年に開花時期を調査したところ、ウワミズザクラより一週間～10日ほど遅く、5月末に開花した。

引用文献

- (1) 柿崎敬一・高谷奏三郎・斉藤信夫・小林範士・大田正文 (2002) 小川原湖周辺の植物 (2). 青森県立郷土館調査研究年報第26号: 59～62
- (2) 柿崎敬一・高谷奏三郎・斉藤信夫・小林範士・大田正文 (2003) 小川原湖周辺の植物 (3). 青森県立郷土館調査研究年報第27号: 51～56
- (3) 北村四郎・村田 源 (1979) 原色日本植物図鑑・木本編Ⅱ. 16pp
- (4) 日本林業技術協会 (1997) 東北の樹木誌. 68pp



位 置 図

樹高 14.5m

幹周り 147.0cm
(胸高)

枝張り

E 方向 6.0m

W 7.0m

S 5.5m

N 6.5m



写真一1 イヌザクラの高木



写真一2 イヌザクラの花序
(2年枝から出る)



写真一3 ウワミズザクラの花序
(当年枝から出る)